

## ＜全体分析＞

試験時間

120分

## 解答形式

記述式とマーク式の併用。

## 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

## 出題の特徴

読解総合、英作文、聞き取り、文法・語法、英文解釈の各分野から出題されている。

## その他トピックス

- ・リスニングでは近年3問中2問が連動していることが多かったが、今回はすべて独立した問題で、これは2014年度以来のことである。また会話を素材とした問題が出題されなかった。
- ・1(A)で出題されたものと同一の英文が河合塾グリーンコース高3(TW)のテキストで使用されている。なお、この英文は過去に他の大学の入試問題でも使用されたことがある。

# 英語

## 東京大学 (前期) 2/3

### <大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1(A)	読解総合	「食と人類の深い関わり」 (406 words)	英文の内容を 70～80 字で要約する問題。本文の内容・展開は比較的把握しやすいが、論点を取捨選択し制限字数以内で答案をまとめるのにやや苦勞する。 《出典》 Margaret Visser, <i>The Rituals of Dinner: The Origins, Evolution, Eccentricities and Meaning of Table Manners</i> (1991)	標準
1(B)	読解総合	「会話の持続時間にまつわる心理」 (991 words (本文 879 words + 空所 11 words + 選択肢 101 words))	2021 年度同様、文補充問題 (ア) と語句整序問題 (イ) が出題された。本文が 100 語以上長くなった。(ア) は 5 箇所。ダミー選択肢は 1 つに減った。(2) は正解選択肢の them が指すものが先行文脈の conversation (単数形) であるため、かなり迷う。(イ) の語数は 4 語増えて 11 語。ポイントが多く、正解を出すのに苦勞する。 《出典》 Rachel Nuwer, “People Literally Don’t Know When to Shut Up – or Keep Talking – Science Confirms”, <i>Scientific American</i> (March 1, 2021)	やや難
2(A)	英作文	意見論述 (60～80 words)	「芸術は社会の役に立つべきだ」という主張についての考えを、理由を添えて書くことが求められた。ある主張に対する意見を論述するタイプは久しぶりの出題である。	標準
2(B)	英作文	和文英訳	多和田葉子『溶ける街 透ける路』からの引用を英訳することが求められた。一部、表現を工夫しないといけない箇所があったが、とりたてて難しいものではなかった。	標準
3(A)	聞き取り	「オウム貝の一種の発見の記録」 (534 words)	1 人称によるモノローグを素材としていた。 《出典》 Richard Hamilton, “Nautical Quest: Marine scientist Rick Hamilton embarks on a search for a deepwater nautilus not seen in decades”, <i>The Nature Conservancy</i> (June/July 2016)	標準
3(B)	聞き取り	「思考中に何を行っているか」 (487 words)	講義形式の問題。(11)、(13) は正答に至るのが難しい問題であった。 《出典》 Kelly Oakes, “What the voice inside your head says about you”, <i>BBC Future</i> (August 20, 2019)	標準
3(C)	聞き取り	「犯罪科学に対する世間の誤解」 (587 words)	講義形式の問題。全体的に素直な問題であった。	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
4(A)	文法・語法	正誤問題 「公開討論の重要性」 (589 words)	2019 年度から続いて正誤問題が出題されている。中には判定がやや難しいものが含まれている。 《出典》 Amartya Sen, <i>Home in the World: A Memoir</i> (2021)	やや難
4(B)	英文解釈	下線部和訳 「子どもを読書好きにさせるには」 (330 words)	下線部は3つで、so の内容明示を求める設問が含まれていた。おおむね文構造は把握しやすく、日本語にしやすい。 《出典》 Mary Keeling, “Dancing across the Literacy Divide”, <i>Knowledge Quest</i> (vol. 48, 2020)	標準
5	読解総合	「自分の性別に違和感を抱いていた少女時代」 (962 words)	2021 年度に続きエッセイ色の強い素材からの出題となった。記述式の設問としては、説明問題が2問、語句整序問題が1問出題された。 《出典》 Alex Marzano-Lesnevich, “Body Language: How to tell a genderqueer story”, <i>Harper’s Magazine</i> (December 2019)	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・東大は、設問形式に毎年のように変化がある。2022 年度はリスニングで出題形式に変化が見られた。よって、過去の多様な形式を踏まえて、さまざまな設問に取り組み、形式の変化に対応できるようにしておく必要がある。東大英語の攻略には全般的に以下のような対策をとっておかなければならない。
- ・読解に関しては、設問形式にある程度の変動はあるものの、「文脈把握力」を主に要求している点では、根本的な部分に変わりはない。要求された課題を念頭に置いて、一定以上のスピードで英文を読み解き、必要な情報をまとめる練習が有効である。また、日本語表現能力を高めることも怠ってはならない。
- ・作文に関しては、基本的な知識の正確な運用が求められている点は変わらない。今後も形式やレベルの変動があることは予想されるので、多様な形式で練習を積み、添削指導を受ける必要がある。
- ・リスニングに関しては、書き取りの練習なども取り入れ、基本的な聞き取り能力を養うことに加え、過去問演習を通して情報を整理しながら話の展開をつかむ力を養うようにしよう。